

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立勸興小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月 19 日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

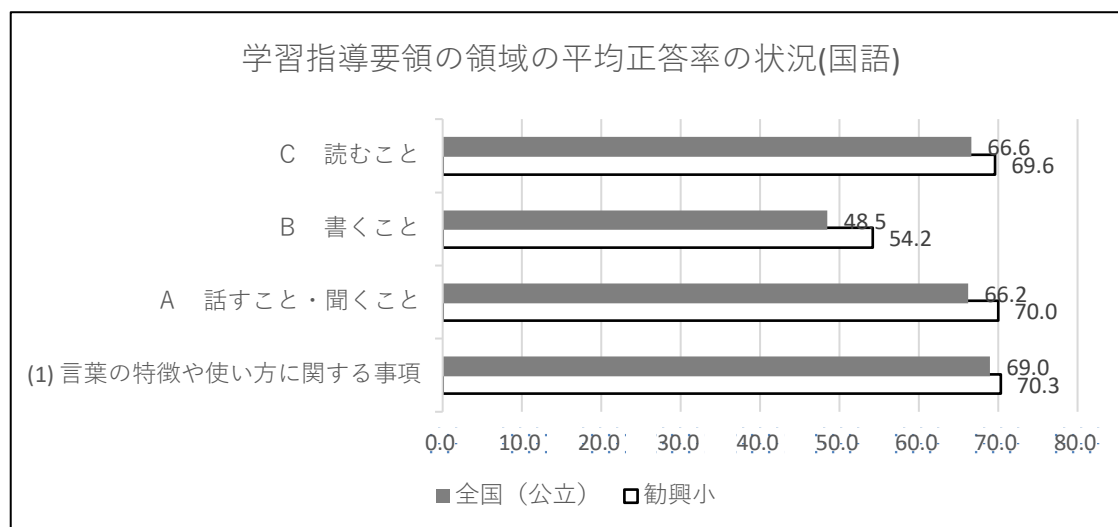
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学 6 年生・中学 3 年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数、理科、(数学、英語)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1)結果

今回の調査ではすべての領域で全国平均を上回った。特に書くことでは、全国平均を5ポイント以上上回っており、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝えたりすることができている。

一方、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えたり、話し手が伝えたいことの中心を捉えたりする問題では全国平均を下回っている。

(2) 学力向上のための取り組み

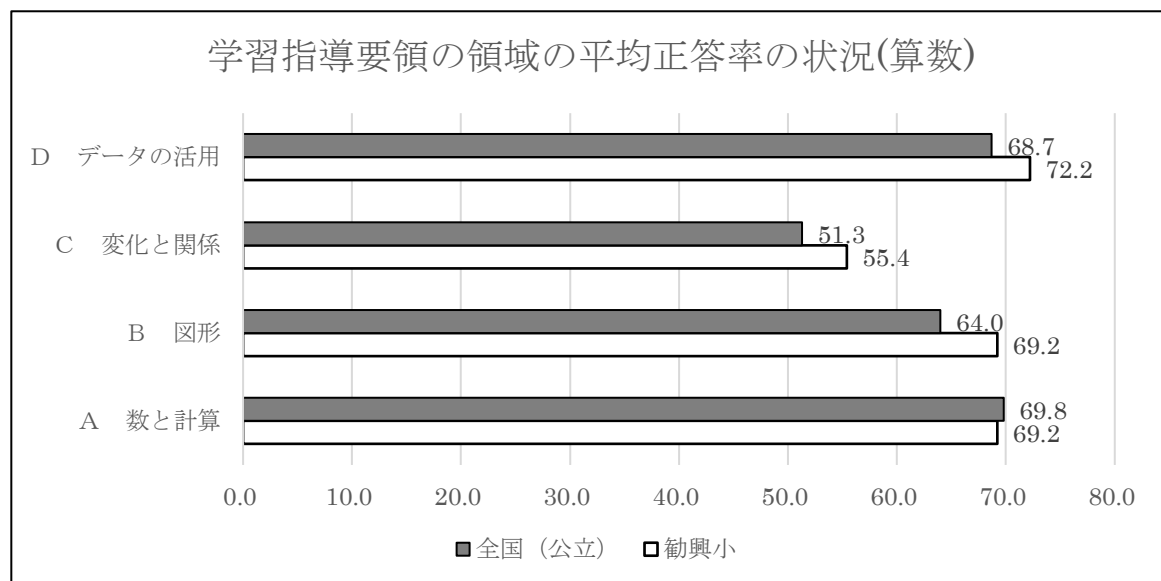
【学校では】

- 具体的思考操作（考える活動）を通して学習活動（言語活動）を実践することで、育てたい資質・能力を育成する学習（3フレーズで創る学習課題）に昨年度より取り組んでいます。その成果として記述式の問題の回答率が高くなっています。取組を続けていきます。
- 物語教材を読み取る授業では、登場人物の心情について叙述を基に捉えさせるようにしています。登場人物の心情を表す部分を文中から選んで線を引かせる（思考操作）等して、子ども一人一人が根拠を明確にしながら、登場人物の心情を捉えるような授業づくりを行います。
- 文章や話題の要点を短い言葉でまとめる学習活動を充実させていきます。

【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。テレビや新聞等の情報を家族で共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 自学自習ノートに読んだ本についての感想や要点を書く活動を勧めます。長い文章を書くことも大切な力ですが、決められた文字数で必要なことを書く活動も要点を捉える力をつけるために効果的な学習です。

2 算数



(1) 結果

3領域で全国平均を5ポイント以上上回った。割合の問題や目的に応じてデータを活用する問題、プログラミングを用いた問題では特に正答率が高くなっている。

一方、「数と計算」の領域で全国平均を下回っている。問題を見ると、立式の理由を問われたり、目的に合った数の処理の仕方を問われたりする問題でのつまずきが見られます

(2) 学力向上のための取り組み

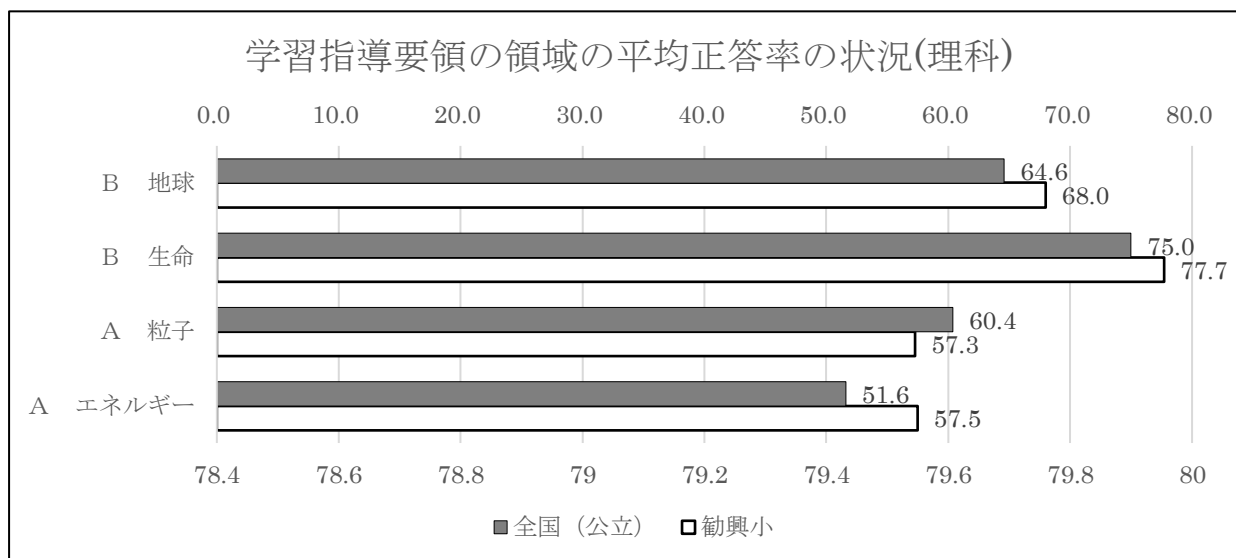
【学校では】

- 文章問題で立式する際には、ただ式を立てさせるだけでなく、その式の根拠となる部分に印をつけさせています。「分けるという言葉があるからわり算」「□が▲つ分と書いてあるから□×▲」というように言葉に注目させるようにしています。
- 自分の考えを友達にわかるように説明する機会を大切にしています。相手に伝わるように話すためには、立式の根拠や計算の過程を整理する必要があります。自分の考えを整理しながら話す中で論理的思考力が高まっていきます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、つまずきがないか把握するためにドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そして、お子さんと一緒に間違えた問題に再挑戦してみましょう。その際に、たくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 生活の様々な場面で算数の知識を活用しましょう。買い物に行った際におこづかいを渡して自分で買い物をさせてみたり、料理を作る中で分量の計算を一緒にしてみたりしましょう。学習が生活の中で役に立つという「有用感」を感じさせることが大切です。
- 自学自習ノートで、プリントやテストで間違えた問題に再度チャレンジしたり、様々なパターンの問題に取り組んだりしましょう。

3 理科



(1) 結果

3領域で全国平均を上回った。特に、育ち方と主な食べ物の二次元表から昆虫の食べ物に関する問いを見出す問題では全国平均を10ポイント以上上回っており、情報を整理しながら調べるテーマを設定する力が育まれていることがわかる。

一方、「粒子」の領域では全国平均を下回っている。「メスシリンダー」という容器の名前を書く問題で、全国平均を大きく下回っていることが影響している。

(2) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験・観察を行う際には問題に主体的に関わっていくためのきっかけとして、自分の予想を立てる時間を十分に確保します。また、「何を調べるための実験なのか」「実験を行うためにはどのような器具が必要なのか」を話し合い、明確にすることで学習内容の理解を深めるとともに、器具の正しい使い方についての理解も深めていきます。
- 単元のまとめの学習活動（言語活動）を充実させることにより、より一層の知識の定着を図るとともに、自然の事物・現象について説明する力を付けます。

【ご家庭では】

- 宿題のプリントやテストで間違えたところは自学自習ノートにやり直しをしたり、もう一度教科書を読み直したりして同じ間違いを繰り返さないように学習させることが大切です。
- 自学自習ノートに実験の方法をまとめることを子どもたちに勧めています。実験の手順だけでなく、器具の使い方についても理解することができます。
- 理科では、実際に体験したり触れ合ったりすることを大切にしています。普段何気なく生活する中で「なんでだろう」「どうしてこうなるの」と感じる気持ちが大切です。お子さんが疑問をもったことについて一緒に考えたり、調べてまとめるように促したりすることで理科への興味関心が高まっていきます。科学を取り上げたテレビを見たり、科学館などに行ったりするのもいいで